

11年かけ自転車で地球2周15万kmを走破した  
中西大輔さんを迎え  
植村直己冒険賞授賞式・記念講演会

# 「夢への挑戦」



▲雨季のラオスのぬかるんだ道を走る  
中西さん(2009年)



▲中貝市長から盾と記念メダルを受け取り、記念撮影に応じる中西さん

6月5日、日高文化体育館に2009「植村直己冒険賞」受賞者の中西大輔さん(40歳・川西市在住)を迎え、14回目となる授賞式を開催しました。

中西さんは、1998年7月、子どものころからの夢「六大陸走破、自転車で世界一周」の実現の旅に出発し、人知れず、黙々と11年かけて地球を2周、距離151,849kmを1台の自転車で走破しました。また、130カ国を訪問する中で、出会った人たちと交流を行いました。

当日、選考委員の西木正明さんの選考評に続き、中貝市長から盾とメダルを受けた中西さんは「憧れの植村直己さんの賞を受賞でき感無量です」と受賞の喜びを話しました。

また、「夢への挑戦～自転車から見た130カ国～」と題した記念講演も行われ、約850人の観衆を前に、映像を使って11年にわたる出会いや冒険の足跡をさまざまなエピソードを交えながら話しました。

授賞式終了後には、植村直己さんの出身地区の国府地区公民館に会場を移動し、「受賞者を囲む会」が開催されました。地元有志や植村さんの同級生など約100人が、心のこもった手料理で中西さんをもてなし、授賞式では聞くことができなかった話や植村直己さんの思い出話などで大いに盛り上がりました。

《問合せ》植村直己冒険館 ☎44-1515



▲選考委員の作家 西木正明さんが「中西さんは、各国の人たちとの交流を重ね、ある意味外交官でもあった。これまでとはひと味違う身近な冒険家」と選考評を述べた



▲オープニングでは、府中小学校3年生の児童が植村直己をテーマに『未来へ!～心をつないで～』と題し、歌などを披露した

## 講演要旨

「夢への挑戦」  
～自転車から見た130カ国～



▲記念講演会で冒険を振り返る中西さん

■夢のきっかけは植村直己さんの本  
小学4年生で自転車によりやく乗れるようになりました。小学生のころは、自転車で遠出したり、山に登るのが好きでした。高校生の時に植村直己さんの本を何冊か読んで、植村さんに大変あこがれを抱き、自分も世界を旅したいという夢がわいてきました。

大学時代はサイクリング部に所属し、日本各地やアメリカ横断などの海外ツーリングに出かけるにつれて、自分の夢は自転車で世界一周することだという思いに至りました。

### ■自転車冒険の魅力

自転車はペダルをこいだ分だけ前に進みます。こがなければ前に進みません。私の自転車の重さは、荷物を含めると約70キログラムにもなりま

した。

ただ、ひたすら頑張れば少しずつでも目標に近づきます。そして、苦しいことを乗り越えた後に、世界各地の素晴らしい風景を眺めることができ、その景色はいつも目に焼き付いています。

### ■冒険は自己責任

私の冒険の基本は、生活用具や食料を入れた荷物を守り、自分の命も自分で守らなければならないということです。

ナミビアでは、テントの周りをハイエナ2匹に囲まれ、ナイフを持って応戦しました。ケニアでは、マラリアを発病し、高熱を出し苦しんだこともありました。

自転車の冒険で一番怖いのは、交通事故です。整備不良の車や酔っ払い運転の車が、いつ自分に衝突するか分からないという恐怖が常にありました。

### ■素敵な出会い

厳しい気象条件の中でさまざまなトラブルに遭遇しました。そんな時に、現地の方たちが快く手助けをしてくれました。うれしかったのは、つらい時に声を掛けてくれたことです。見掛けが貧しい人ほど親切で、水や食糧を恵んでくれたり、宿泊までさせてくれたりしました。

また、反対に苦労したのが、アフリ

カ中央部で金銭を要求する悪徳警官に悩まされ続けたことです。

しかし、そんな時でも現地の方はすごく親切でしたので、嫌な体験をしても次の国に行けば楽しい出会いがあると思うようにして、冒険を続けていました。



▲中西さんに駆け寄り子どもたち(エチオピア)

### ■夢を支えてくれた人々

自転車で世界を冒険することは私の夢であり、その夢を自分の力だけで成し遂げてきたと思っていました。しかし、自分の知らないところでいろいろな方々の支えがあり、世界各地で出会った方々との出会いを大切にしてきたことで、この冒険を続けてこられたと、今は思っています。

人生は一度きりです。やりたいことを思い切りやって、後悔のない人生を送ってほしいと思います。

### ふれあい夢のサイクルひろばを開催

授賞式の翌日の6月6日、植村直己冒険館駐車場で「ふれあい夢のサイクルひろば」を開催しました。

これは、今回の冒険賞が自転車の冒険であったこともあり、自転車の面白さを皆さんに体験していただくために開催したものです。

会場には、関西サイクルスポーツセンターの「夢の自転車」20台が集結し、子どもから高齢者まで約500人が「夢の自転車」や電動アシスト自転車を体験し、楽しみました。

また、交通安全クイズやビンゴ大会なども行われ、受賞者の中西輔さんも特別ゲストとして参加し、会場を沸かせるなど、晴れ渡る青空の下、歓声が響き渡りました。



▲いろんな夢の自転車に乗って楽しむ参加者たち